



各種調査結果を踏まえた課題の整理

1. 現状のまとめ①

項目	現状
地勢・人口	- 地形は概ね平たんであり、その大部分は台地上に位置する。標高差は最大32m、ほぼなだらかな地形。 - 将来人口は現状と同程度と想定。
交通基盤	- 常磐自動車道や国道16号、国道6号など広域的な交通アクセスに優れており、骨格となる幹線道路が格子状に地域を結び、交通利便性が高い。 - 鉄道3路線（JR常磐線、東武アーバンパークライン、つくばエクスプレス）、11駅が立地し、バス路線は主に市街化区域内において展開。 - 呼塚交差点を起点に、主要渋滞区間・箇所が市内に存在。市民の移動への不満として、「道路の渋滞」、「自転車専用レーンの不足」が上位。 - 計画期間における目標であった市内約100kmの自転車ネットワーク計画対象路線のうち、整備済は約7km。 - 計画道路への矢羽根敷設前後で、車道通行の割合は増加し、車道逆走の割合は減少。
交通特性 (移動関連)	- 柏市の代表交通手段における自転車分担率は、柏全域で12.7%となり、H20PT調査より2.1%の減少。 - 駅別の端末交通手段は、増尾・逆井・高柳駅での自転車の分担率が20%超。 - 自転車利用者の移動目的は、「私事」の割合が最も高く、次いで「通勤」。 - 市内移動は、柏駅の位置する周辺ゾーンでの移動が多い傾向。 - 柏駅周辺の歩行者自転車通行量は、平日・休日共に減少傾向。柏市の商圏人口は近年増加傾向にあるが、人口減少の影響も懸念。 道の駅しようなんの観光入込客数は、H27年からR3年にかけて減少傾向。
交通特性 (安全関連)	- 柏市での自転車事故の発生件数はH27から比較し約4割減少しているものの、全事故に対する自転車事故発生件数は、30%付近で横ばい。 年齢別では70歳以上の死傷者数が最も多く、次いで高校生、20～50代と幅広い年代で事故が発生。 自転車関連事故は対自動車が89.8%と最も高く、次いで対歩行者が7.0%（令和4年）。 - 市内の自転車関連事故の発生地点は、交差点内が約7割。 - 自転車の走りやすさについて、柏駅周辺は「走りにくい」が約6割である一方、北部地域周辺は「走りやすい」が約6割。 - 市内住環境に対する満足度アンケートのうち、「自動車・自転車への安全対策」が最も満足度が低い（約4割が不満）。 自転車の交通ルールは概ね認知されているものの、自転車の車道通行原則を守っている人は56%。 令和5年4月1日より施行された「全ての自転車利用者のヘルメット着用努力義務」について、市民の約6割は「知っているが守ることができていない」。 - ヘルメットを着用していない理由として、「努力義務であること」、「駐輪時の置き場所がない」と回答。 市民の4割は自転車の安全教育を受けた経験が「ない」または「受けたが覚えていない」。 - 自転車の利用環境への要望は、「自転車専用のレーン等の設置により安全な走行環境を整える」。

課題やニーズ：太字・下線

市民・市外来訪者への調査結果：青字、事業者・団体への調査結果：緑字



1. 現状のまとめ②

項目	現状
駐輪	- 市内駐輪場の収容台数は、5 駅（新柏駅や柏たなか駅等）で許可率が100%超。一方、駐輪場によっては5割を下回り、利用に差。 - 市営駐輪場の定期利用者は、コロナ禍以降減少傾向。 - 一方、南柏・北柏・柏の葉キャンパス駅など一部エリアの駐輪場で、一時利用者数は微増傾向。 駐輪場環境への不満として「1台分のスペースが狭く駐輪が困難」、「屋根がない」、「駐輪場所が施設から遠い」。
放置自転車	- 撤去された放置自転車の台数は、年々減少傾向であり、現行計画の初年度（平成24年度）と比較し約8割の減少。 - 一方で、柏駅東口において撤去された放置自転車が最多。 「駐輪場以外の道路や歩道上に駐車することがある」人は約 3 割、その理由は、「目的地から遠い」、「近くの駐輪所を知らない」が上位。
施設立地	市内には公共施設、総合病院、運動施設等が点在し、主な商業施設は国道沿いに多く立地。
観光	- 柏市内では、レンタサイクルを4か所で実施。 手賀沼周遊レンタサイクルは運営主体によって運用ルールがそれぞれ異なり、利用者にとって不便な状況となっている（車体、貸出方法、予約方法等のルールが主体毎に異なる）。 - 手賀沼のサイクリングロードを1周できるよう自治体間で連携したハード整備や情報発信を求める声や、手賀沼の周辺店舗と連携した自転車を活用した地域イベントの開催を求める声。 手賀沼周辺に魅力を感じると回答する市民は44.1%であり、その魅力として「ジョギングやサイクリングを楽しめること」を最も高く評価。一方で、4人に1人は「よく知らない」と回答し、一部の市民は手賀沼周辺の魅力十分に認知していない。 テガチャリの改善要望では、休憩場所の設置や地図、看板の設置を求める声。 - B.B.BASE手賀沼において布佐駅で降車したサイクリストは手賀沼サイクリングコースを利用し手賀沼を周遊可能。 市民の42%、市外来訪者の70%はシェアサイクルを利用したい・やや利用したいと回答。また、市民の18%、市外来訪者の58%はシェア電動キックボードを利用したい・やや利用したいと回答。 市外来訪者の自転車利用環境へのニーズは「利用レベルに応じた多彩なサイクリングコースの設定」、「レンタサイクルを利用しやすくすること」が約4割。 サイクリングツアーの利用意向は66%。
健康	- 柏市民のスポーツへの意欲は平成18年度から年々減少。 全国に比べ柏市のスポーツ実施率は低い状況。
新モビリティ	- 近年、自転車の多様化や新たな電動小型モビリティが登場し、誰もが気軽に利用できる移動手段として活用が期待。 - 流山市では、電動キックボードのシェアリングサービスの実証実験を実施。 （再掲）市民の18%、市外来訪者の58%はシェア電動キックボードを利用したい・やや利用したいと回答。

課題やニーズ：太字・下線

市民・市外来訪者への調査結果：青字、事業者・団体への調査結果：緑字



2. 課題の整理

- 各種調査（アンケート結果等）を踏まえ、柏市における自転車を取り巻く課題を以下のとおり整理。

① 通行空間に関する課題

- ・ 自転車通行空間が不足
- ・ 自転車通行空間の早急な整備

② 駐輪環境に関する課題

- ・ 市民ニーズに合わせた適切な駐輪規模への見直し
- ・ 放置自転車対策の継続

③ 活用に関する課題

- ・ 手賀沼などのサイクリングロードを活かした地域の魅力発信
- ・ 更なる自転車利用環境の向上
例）マップや休憩スポットの充実
- ・ レンタサイクルなどを通じた自転車利用機会づくり
- ・ 運動・健康維持のための、日常的に自転車を活用しやすい環境づくり

④ ルールマナーに関する課題

- ・ 交通ルールの周知が不十分
特に、交通安全教育が十分に浸透していない高齢者、20～40代の子育て世代等

